

道路事業の再評価概要書

道 路 事 業 の 再 評 価 概 要 書		番 号	1 2 2		
		事業主体	栃 木 県		
事業名	快適な道づくり事業		事業所管課	県土整備部 道路整備課	
路線・河川名	主要地方道 藤原宇都宮線		事業箇所名	宇都宮市中里	
事業区間	宇都宮市中里町～金田町		事業延長	2, 400m	
H14年度事業化		-		H14年度用地着手	H18年度工事着手
事業期間	H14年度～H27年度		事業進捗状況	基準年次：【平成23年度末時点】	
[うち用地補償費] 全体事業費	[33. 2億円] 47. 6億円			[うち用地補償費] 既投資事業費	[26. 8億円] 34. 9億円
事業概要					
<p>主要地方道藤原宇都宮線は、宇都宮市と県北部方面を結ぶ幹線道路であり、県都宇都宮から県内各地に延びる放射状道路の一つとして、地域間の連携・交流の拡大を図る重要な役割を担っている道路である。</p> <p>宇都宮環状道路から当工区へ至るバイパスを、南側から順次整備中であり、沿線では、中里原区画整理事業が実施中である。</p> <p>また、東北自動車道上河内スマートインターチェンジが、平成22年度にフルインター化されるなど、交通量が増加している路線である。</p> <p>しかしながら、現道の幅員は狭小で、大型車同士のすれ違いにも支障があり、更には一般国道293号との交差点には右折レーンも設置されていないことから、朝夕には渋滞が発生するなど、円滑な交通の確保が課題となっている。</p> <p>また、工区沿線には上河内中央小学校・中学校が立地しているにもかかわらず、歩道が未整備であることから、登校する児童や住民が危険にさらされている。</p> <p>このため、渋滞や幅員狭小区間の解消を図ることで円滑な交通に併せて、安全な自転車・歩行者空間も確保するための、道路拡幅事業である。</p>					
事業を巡る社会経済情勢等の変化					
特になし					
事業の投資効果					
1 費用対効果分析結果		【総便益 (B)】		【総費用 (C)】	
(1) 事業全体 B/C= 3. 3		162. 3億円		49. 4億円	
(2) 残事業 B/C= 11. 9		145. 7億円		12. 3億円	
2 事業の整備効果等					
<ul style="list-style-type: none"> ・渋滞箇所・狭隘区間の解消。 ・自転車及び歩行者の安全を確保。 					
事業の進捗状況等					
1 事業の進捗状況					
<ul style="list-style-type: none"> ・全区間のうち、平成23年度までに国道293号との交差点部（約700m）を供用。 ・残る区間については、用地の取得及び工事を推進。 					
2 今後の事業進捗の見込み					
・今後は用地の取得及び工事を推進し、平成27年度を目標に暫定2車線での供用を図る。					
コスト縮減等					
1 コスト縮減方策					
・再生骨材、再生アスファルト合材を積極活用しコストを縮減					
2 代替案立案等の可能性					
・大部分の用地を既に取得していることから、代替案の立案は困難である。					
事業の対応方針（案）		現計画で事業を継続する。			



写真 1 : 未整備区間の道路状況



写真 2 : 着手前の中里原交差点の状況



写真 3 : 中里原交差点の供用状況